

10 日ロ地先沖合漁業交渉

日本とロシアとの間では、昭和 59 年 12 月に成立した「日ソ地先沖合漁業協定」に基づき、毎年、操業条件等について日ロ漁業委員会において協議が行われ、そこで妥結となった操業条件により、相手国 200 海里水域内に入漁しています。

令和 5 年の操業条件は、令和 4 年 12 月 19 日から 12 月 27 日までウェブ会議にて開催された日ロ漁業委員会第 39 回会議で妥結となり、日本側が求めていた相互入漁のマダラ漁獲割当量の大幅な増枠が実現したほか、日本漁船とのトラブル防止や資源保護の観点より、ロシア漁船が日本水域で操業する際の新たなルールが設定されました。

なお、相互入漁の漁獲割当量は前年から 25,000 トン減の 50,000 トンとなり、令和 2 年から続く漁業協力費の中断についても継続することが決定し、1 月からの操業機会が確保される結果となりました。

(1) 合意内容

① ロシア 200 海里水域における日本漁船の操業条件等

ア. 相互入漁

区分	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
総漁獲割当量	77,500t	90,000t	90,000t	75,000t	50,000t
総隻数	592 隻	592 隻	585 隻	585 隻	585 隻
協力金	7 億 871 万円	0 円	0 円	0 円	0 円

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
サンマ	59,000t	70,927.4t	70,927.4t	56,424t	31,824t
マダラ	1,275.5t	810t	810t	1,600t	3,200t
スルメイカ	5,617.9t	5,814.25t	5,814.25t	5,619t	5,619t
その他	11,606.6t	12,448.35t	12,448.35t	11,357t	9,357t
計	77,500t	90,000t	90,000t	75,000t	50,000t

イ. 有償入漁

区分	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
総漁獲割当量	1,062.2t	1,062.2t	1,062.2t	694.66t	694.66t
総隻数	22 隻	22 隻	22 隻	22 隻	22 隻
入漁料	4,112.2 万円	4,112.2 万円	4,112.2 万円	2,694 万円	2,694 万円

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
サンマ	350t	350t	350t	0t	0t
マダラ	190t	190t	190t	190t	190t
スルメイカ	16t	16t	16t	14t	14t
その他	506.2t	506.2t	506.2t	490.66t	490.66t
計	1,062.2t	1,062.2t	1,062.2t	694.66t	694.66t

② 日本 200 海里水域におけるロシア漁船の操業条件等

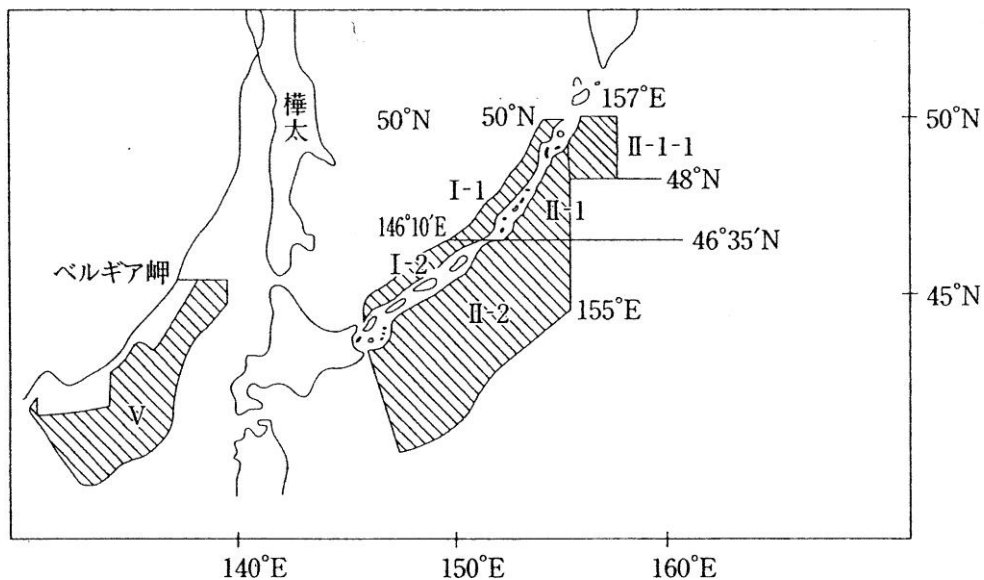
ア. 相互入漁

区分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
総漁獲割当量	77,500t	90,000t	90,000t	75,000t	50,000t
総隻数	89隻	89隻	89隻	89隻	89隻

<主な魚種別の漁獲割当量>

魚種	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
マイワシ	11,000t	23,500t	23,500t	20,000t	8,000t
サバ	51,500t	51,500t	51,500t	45,000t	40,000t
イトヒキダラ	15,000t	15,000t	15,000t	10,000t	2,000t
サンマ	—	—	—	—	—
計	77,500t	90,000t	90,000t	75,000t	50,000t

(2) 日ロ地先沖合漁業交渉操業海域図



I-1区	千島(オホーツク海側北)	底はえ縄
I-2区	千島(オホーツク海側南)	
II-1区	千島(太平洋側北)	中層トロール、底はえ縄、棒受け網
II-1-1区		中層トロール、着底トロール、底はえ縄
II-2区	千島(太平洋側南)	底はえ縄、棒受け網
V区	日本海	いか釣り

○有償入漁水域

II-2区	千島(太平洋側南)	着底トロール、中層トロール
-------	-----------	---------------

資料: 北海道水産林務部

注: II-1、II-1-1区の中層トロール・着底トロールは、遠洋底びき網

II-2区の中層トロール・着底トロールは、沖合底びき網